

整理番号： 55

科目名： 鉢物・緑花木栽培概論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
米倉 悟	有	農業大学校職員8年経験
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験
原 知明	有	農業大学校職員4年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員1年経験
坂下 健	有	農業大学校職員10年経験

授業の目的及び内容	鉢物・緑花木生産の現状、消費動向、流通の概要を把握するとともに、鉢物・緑花木生産に必要な環境制御法、生育調節法、品質保持技術等について学習する。
授業の方法	主に教科書を用いた講義を行うが、必要に応じて参考資料を配付する。
到達目標	①鉢物・緑花木を含む花き生産業界を取り巻く環境の全体像を把握できる。 ②鉢物・緑花木を商品として生産する方法を理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	新版 草花栽培の基礎	樋口 春三	社団法人農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	筆記試験で100%評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	花きと花き産業 人間生活と花と緑	2
2	花きの成長・開花と環境	2
3	花きの繁殖方法	2
4	花きの育種	2
5	土壌の性質と施肥 施設の種類・構造と利用	2
6	花きの品質と品質保持	2
7	苗の生産	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 56

科目名： 鉢物・緑花木栽培各論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験

授業の目的及び内容	主な鉢物・緑花木の生態特性や一般的な栽培技術について学習する。
授業の方法	①講師が作成した資料を用いた講義 ②対象品目を栽培している施設内での講義及び討議
到達目標	①主要栽培品目の生理・生態特性の詳細を理解する。 ②主要栽培品目の栽培技術を理論的に習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	新版 草花栽培の基礎	樋口 春三	社団法人農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	筆記試験で100%評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	鉢花の栽培について	4
2	観葉植物の栽培について	3
3	洋ランの栽培について	3
4	緑花木の栽培について	2
5	花壇苗の栽培について	2
6	試験	1
合計		15

整理番号： 57

科目名： 鉢物・緑花木機械施設利用演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験
伊藤 駿冨	有	株式会社タケザワ 現役整備担当社員

授業の目的及び内容	鉢物・緑花木生産に必要な農業機械及び施設について、その構造や機能を理解し、操作方法や有効な利用方法を習得する。
授業の方法	①講師が作成した資料を用いた講義 ②講師の助言・指導による温湯ボイラー及び温風ボイラーの点検・整備演習
到達目標	①主要品目栽培施設の環境制御方法を理解できる。 ②主要品目栽培施設の環境制御を実践できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	演習への出席率50%、受講態度30%及び演習内容の理解度（レポートによる）20%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	温室の環境制御方法：各温室の環境制御装置の種類と特徴	6
2	温室管理方法：各温室の換気温度、暖房温度、カーテン制御、灌水間隔と灌水時間、異常事態の認識と対処方法	4
3	動力噴霧器の操作：保管場所、構造、能力比較、操作方法と注意点、禁止行為、農薬散布の実際	4
4	ボイラー始業及び終業点検：シーズン始業及び終業時の点検、整備方法	2
5	暖房用温湯ボイラー：ボイラーの設置場所、構造、操作方法と注意点、禁止行為、異常事態発生	2
6	底面給水の操作：底面給水施設の構造、底面給水の方法、灌水間隔と灌水時間	4
7	春の温室管理方法：各温室の換気温度、カーテン制御、灌水間隔と灌水時間	2
8	夏の温室管理方法：各温室の換気温度、遮光カーテン制御、灌水間隔と灌水時間	2
9	秋の温室管理方法：各温室の換気温度、カーテン制御、灌水間隔と灌水時間	2
10	冬の温室管理方法：各温室の暖房温度、カーテン制御、灌水間隔と灌水時間	2
合計		30

整理番号： 58

科目名： 鉢物・緑花木先端技術演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験

授業の目的及び内容	鉢物・緑花木分野の実用化された先端技術を習得する。
授業の方法	①講師の助言・指導による自動環境制御装置の設定演習 ②講師の助言・指導による省力化装置の操作演習
到達目標	①主要品目栽培施設の自動制御装置・省力化装置の操作方法を理解できる。 ②主要品目栽培施設の自動制御装置・省力化装置を操作できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	演習への出席率50%、受講態度30%及び演習内容の理解度（レポートによる）20%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	複合環境制御技術：天窗と側窓の開閉と開度	4
2	複合環境制御技術：2層カーテン及び外部遮光の開閉と開度	4
3	複合環境制御技術：変温管理における時間帯と設定温度の意義	2
4	複合環境制御技術：LED補光の方法とその効果	2
5	I C T技術の利用：あぐりログ等を利用した環境データの収集・分析、活用方法	10
6	省力化技術の利用：コショウランの冷房処理技術の仕組みと方法	2
7	省力化技術の利用：シクラメンの底面給水技術の仕組みと方法	2
8	省力化技術の利用：観葉植物の自動灌水技術の仕組みと方法	2
9	簡易栄養診断技術：液肥の組成、季節別施用濃度、施用量、施用頻度 簡易栄養診断の実施	2
合計		30

整理番号： 59

科目名： 鉢物・緑花木植物生長調節技術

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験

授業の目的及び内容	主な鉢物・緑花木の種類別の成長調節技術について学習する。
授業の方法	①講師作成資料による講義 ②講師の助言・指導による実地演習
到達目標	①主要栽培品目の商品価値向上技術の意義を理解できる。 ②主要栽培品目の商品価値向上技術を習得できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	新版 草花栽培の基礎	樋口春三	農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	出席率40%、受講態度30%及び理解度（レポートによる）30%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	成長調節の意味：栄養成長と生殖成長の概要と環境要因 成長を調整する意義	3
2	温度管理と成長：栄養成長及び生殖成長と温度 施設内温度制御による成長調節事例	4
3	日長管理と成長：栄養成長及び生殖成長と日長時間 日長時間及び温度による成長調節事例	4
4	化学物質と成長：植物の成長に影響を及ぼす化学物質の特徴 化学物質による成長調節事例	4
合計		15

整理番号： 60

科目名： 鉢物・緑花木病害虫対策演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験

授業の目的及び内容	主な鉢物・緑花木の病害虫診断と効果的な防除方法を習得する。
授業の方法	①講師作成資料による講義 ②講師の助言・指導による実地演習
到達目標	①病害虫防除の意義を理解できる。 ②主要栽培品目を侵す病気及び害虫類を同定できる。 ③病気及び害虫類による品質低下を回避できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	新版 草花栽培の基礎	樋口春三	農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	演習への出席率40%、受講態度30%及び演習内容の理解度（レポートによる）30%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画			
回数	内 容		時間
1	病害虫対策の基本と注意点	・病害虫防除の意義 ・病害虫防除の種類と具体事例	4
2	病害虫の分類	・病原体の種類と特徴 ・昆虫等の種類と特徴	4
3	病害虫被害の症状	・病害虫発生状況の具体事例 ・診断方法	4
4	化学的防除法①	・農薬の種類と特徴、混合方法、注意点 ・製剤の種類と特徴	4
6	化学的防除法②	・散布と灌注 ・浸透移行性と散布方法	2
5	鉢物の主な病害虫とその防除方法（春～夏）		4
8	鉢物の主な病害虫とその防除方法（秋～冬）		4
7	耕種的防除法	・耕種的防除法の具体事例	2
9	生物的防除法	・天敵の種類と防除効果	2
合計			30

整理番号： 61

科目名： 農産加工演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鶴田 瑞穂	有	農業大学校職員 8年経験

授業の目的及び内容	花きの活用を図るため、鉢物・緑花木を活用した屋外及び室内装飾技術を習得する。
授業の方法	①講師作成資料による講義 ②講師の助言・指導による実地演習
到達目標	①鉢物装飾技術を習得し、鉢物の有効活用を図る。 ②今後の花き産業のあり方や方向性を見極める力を養う。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	演習への出席率35%、受講態度30%及び演習内容の理解度35%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	花きによる屋外及び室内装技術について	4
2	季節の花を活用した寄せ植えの作成	4
3	観葉植物・多肉植物を活用した苔玉等の作成	4
4	代替用土を使用したインテリアグリーンの作成	4
5	緑花木を活用した和物鉢植え等の作成	4
6	鉢物・緑花木を活用した正月飾り等の作成	4
7	花き素材を使用したデザート等の作成	4
8	総括（まとめ）	2
合計		30

整理番号： 62

科目名： 鉢物・緑花木流通論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験
和田 朋幸	有	農業総合試験場普及戦略部技術推進室主任専門員

授業の目的及び内容	鉢物・緑花木の流通構造や流通の現状、最近の市場動向等について学習し、商品取引に対する理解を深める。
授業の方法	講師作成資料による講義
到達目標	①鉢物・緑花木の流通構造や流通の現状を理解する。 ②最近の市場動向等を理解する。 ③鉢物・緑花木の商品取引に対する理解が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	出席率30%、受講態度20%及び理解度（レポートによる）50%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	鉢物・緑花木の生産・流通 鉢物・緑花木の生産と流通の概要	4
2	鉢物・緑花木市場の現状と課題	4
3	鉢物・緑花木の生産者組織 生産者組織の特徴と流通について	4
4	鉢物・緑花木の消費動向 生産、流通及び消費の現状と課題	3
合計		15

整理番号： 63

科目名： 専攻実習（1年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	10	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験
坂下 健	有	農業大学校職員10年経験

授業の目的及び内容	鉢物・緑花木の栽培管理を通じて、基本的な栽培技術を体得する。また、プロジェクト学習の概要を把握し、課題の設定や検討を行う。
授業の方法	専攻担当講師による実習指導
到達目標	①鉢物・緑花木専攻で扱う品目の基本的な栽培技術を体得できる。 ②プロジェクト学習の課題設定ができる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	出席率40%、受講態度30%及び実習内容の理解度30%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	基礎的な栽培技術（4月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷	20
2	基礎的な栽培技術（5月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷 ・校外学習	50
3	基礎的な栽培技術（6月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷	60
4	基礎的な栽培技術（7月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷	30
5	基礎的な栽培技術（9月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷 ・プロジェクト学習に関する内容検討	22
6	基礎的な栽培技術（10月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷	16
7	基礎的な栽培技術（11月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷	60
8	基礎的な栽培技術（12月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷	52
9	基礎的な栽培技術（1月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷 ・年間作付計画の作成・プロジェクト設計検討会	60
10	基礎的な栽培技術（2月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷 ・プロジェクト設計検討会	50
11	基礎的な栽培技術（3月） ・鉢物・緑花木の栽培管理、生育状況の観察及び出荷	30
合計		450

整理番号： 64

科目名： 専攻実習（2年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	12	指導形態	実習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	鉢物・緑花木専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験
坂下 健	有	農業大学校職員10年経験

授業の目的及び内容	鉢物・緑花木の栽培技術と経営手法を体得するため、プロジェクト学習を通じて、自ら設定した作付計画に基づき、自主的な栽培管理やほ場の効率的な管理、販売の実践学習を行う。また、先進農家の技術と経営を学ぶ。
授業の方法	専攻担当講師による実習指導
到達目標	①鉢物・緑花木専攻で扱う品目の作付計画を自ら設定できる。 ②鉢物・緑花木専攻で扱う品目の栽培管理や販売を自主的に行える。 ③先進農家の事例から、優れた栽培技術や経営手法を学ぶ。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	出席率40%、受講態度30%及び実習内容の理解度30%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画			
回数	内容		時間
1	基礎的な栽培技術（4月）	・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習	40
2	基礎的な栽培技術（5月）	・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習 ・校外学習	40
3	基礎的な栽培技術（6月）	・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習 ・プロジェクト中間検討会	40
4	基礎的な栽培技術（7月）	・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習 ・県外学習	40
5	基礎的な栽培技術（9月）	・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習 ・校外学習	60
6	基礎的な栽培技術（10月）	・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習 ・プロジェクト最終検討会	60
7	基礎的な栽培技術（11月）	・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習の取りまとめ ・卒業論文作成	60
8	基礎的な栽培技術（12月）	・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習の取りまとめ ・卒業論文作成	60
9	基礎的な栽培技術（1月）	・プロジェクト発表会 ・海外研修	70
10	基礎的な栽培技術（2月）	・施設管理と栽培管理	70
合計			540